

平成 22 年度 第 1 回被服学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 22 年 7 月 3 日 (土) 16 時 00 分から 18 時 00 分まで
II. 場所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者 : 高部啓子委員, 角田由美子委員, 伊佐治せつ子委員, 田中早苗委員
(事務局) 森下主幹, 渡邊職員

IV. 議事概要

1. 学士力の実現に求められる ICT 活用の検討について

今年度より当委員会では学生に学士力を身につけさせるための理想的な授業について検討を行う。第 1 回目では大学における ICT 活用の事例と現状について以下の意見が各委員より述べられた。話題の内容を 6 つの属性, 汎用ソフト, シュミレーションソフト, 学習支援システム, アパレル CAD, 画像提示, その他で分けて示した。

汎用ソフト

- ・一般に多くの授業でパワーポイントが使われている。しかし, 始終使っていると学生は眠くなるので使用を止めた先生もいる。
- ・LMS のような高価なシステムではなくエクセル, ワード, パワーポイントのような汎用ソフトで効果を上げている先生もいる。特殊なものに汎用性はない。

シュミレーションソフト

- ・商品開発, 生産流通など繋がりや仕組みを理解させる分野において, シュミレーションゲームがあると面白い。
- ・コンピュータの可能性と限界。学生は iD-Fit のようなバーチャルコーディネートソフトの身体形状パラメータに自分の寸法を入力する事を嫌う。

学習支援システム

- ・大学内の教育学習支援システムで課題の出題・提出等を行なう, あるいはレポート提出に e-Mail 使用している事例がある。

アパレルCAD

- ・アパレルCADの授業でのパターン操作などの動画表示は有効かという問いに対し, コンテンツの作成に手間が掛り教材の更新が難しいので現状はモニターに作業用とマニュアル用の 2 つのウィンドウを立ち上げて授業を行っている。
- ・アパレルCADの e-learning 的ソフトウェアは開発されている。

画像提示

- ・実習等で多人数の学生に師範して見せる時, ビデオ撮影してスクリーンに大きく提示する。
- ・書画カメラは有効。ファッションイメージ表現, パターン操作など過程が見えることは大切。書画カメラで撮ったデジタル画像をアーカイブしておくことは可能であるが, 学生の状況に合わせて授業を行うので, 単に画像をデータベース化してもそのまま使用できるとは限らない。
- ・化学変化や機器の測定法等, 学生が繰り返し見られるような動画教材はあっても良い。
- ・視覚的に理解させることは良い事であるが, それは既に行なわれており目新しいことではない。
- ・服飾文化史などの講義をビデオに撮って e-learning として公開, 復習や休んだ学生に見せる等の事例はある。

その他

- ・無線 LAN によって学生は PC さえあればいつでもどこでもインターネットの情報を取り込める。
- ・必ずしも ICT の利用が (学習に) 効果的であるとは限らない。

- ・インターネットを利用した大学間（遠隔）講評等の効果に疑問。

2. 分野別情報教育の整理

‘被服学教育における情報教育’に対する外部有識者の意見について委員会の見解を出した。

到達目標 1 について

- ・着装について触れられていないとの指摘に対して、到達度④の被服特有のアプリケーションソフトの中にバーチャルファッションコーディネートソフトウェアも含まれるが、到達目標 1 の文言に着装の表現が無かったので以下のように修正した。「…現代社会に適合する被服の着用を考えた設計やデザインを表現できる。」
- ・「…被服の設計やデザインを表現」を「被服の設計・プロトタイプ製造やデザインを表現」への変更意見に対しては、詳細な表現は不要であるとした。
- ・情報の収集技術とセキュリティ技術を並行して教えるべきであるという意見に対して、【教育内容・教育方法】の①と②「…信頼できる情報源、著作権に配慮した情報収集・分析等教育方法」で触れている。
- ・文書作成、表計算、画像処理などは、被服学教育以外の基礎科目で教育することが望ましい、という意見に対しては同見解であり、基本リテラシーとして到達度に列挙してある。

到達目標 2 について

- ・リサイクルユースなどを考えるツールが入っていると良いのではないかという意見に対して、‘リサイクルシステム’の意に含まれ、ドレスコードを考える内容については‘被服学教育の学士力’の 1. 被服の社会的役割で触れている。
- ・「被服の生産・流通・消費を通じた衣生活」の文言に「被服の生産・流通・消費・維持管理を通じた衣生活」と維持管理を加える提案については、‘被服学教育の学士力’の 5 で‘アパレルの管理’と表現。また、維持管理は消費行動に含まれる。
- ・検索エンジンの効果的な利用技術は、情報基礎科目で身に付けさせた方がよい、という見解に相違ない。

その他

- ・コンピュータセキュリティーやウイルス対策等も情報基礎教育で学ぶという見解に相違ない。

3. 今後の検討スケジュールについて

学士力の到達目標を達成するために ICT を活用した教育モデルを作成する。

次回委員会までに、5 年先の ICT を想定し、被服学の‘この部分の理解には ICT を用いるとよい’‘このようなものがあると良い’といった具体的な案または事例をメールにて提出する。

V. 次回の開催日程

日時：平成 22 年 9 月 11 日（土）または 9 月 18 日（土） 16 時 00 分から

再度メールにて出欠の確認を取る。

場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

以上